

「すべての子の自立を願って」

朝、信号待ちをしている私の車の前を、見覚えのある青年が横断していきました。私が特別支援学校に勤務していた時に関わっていた子で、出勤途中のようでした。ほかにも見覚えのある卒業生が数人一緒におり、彼らが何やら楽しそうな表情で足取り軽く職場に向かう姿に、ほっとすると同時に彼らが誇らしく思えました。またある日は別の卒業生から、就労先のイベントについてのパンフレットが届きました。自信に満ちた手書きの文字で「僕のイベントに遊びにきてください」と書かれた手紙からは、自分の仕事に誇りを持ち、充実した日々を送っているであろうことが十分伝わってきました。会いに行くと、一生懸命覚えたであろうマニュアルを駆使して笑顔で接客してくれました。狭い福井では、教え子と再会したり噂を耳にしたりという機会が多いですが、関わった子供が立派に成長した姿を見たり聞いたりするのは本当にうれしいことです。

教師が関われるのは、子供たちの長い人生のほんの一瞬だけですが、どの子においても少し先の将来や卒業後の自立のことを思い描きながら支援することを私は常に心がけるようにしています。何年経っても私がやっていることや寄り添い方は本当にこれでいいのかと日々悩むことばかりです。しかし、卒業後に社会と接点を持ちながら自分らしく生きていくための地盤作りの一瞬一瞬に関わらせてもらえることは、責任と同時にやりがいのある仕事であり、これからもすべての子の自立を願って関わっていきたいと思っています。